

2025年7月20日（聖霊降臨後第6主日・特定11、C年）

牧師メッセージ

「必要なことはただ一つ」

（ルカによる福音書10:38-42）

司祭ヨセフ太田信三

マルタという名は、「女主人」という意味があります。当時のユダヤ人社会では、男性が親族以外の女性と一対一で接することや、女性が男性を家に迎え入れることは、通常ありませんでした。ですから、（意外に思われるかもしれませんが）今日の福音をよく読み込むと、そのような常識を超え、イエスを迎え入れるほどの信仰をマルタが持っていたことが分かります。しかし、イエスを迎え、もてなす中で、マルタは大切なことを見失ってしまいました。

マルタと妹マリアは対照的です。十二弟子をはじめ大勢の人がいるなか、マリアは弟子の筆頭かのようにイエスの最も近くに座り、没頭してみ言葉を聴いています。そのマリアを見て姉マルタは腹を立てます。当時の社会において、女性のあるべき姿は、掃除をし、食卓を整え、客人をもてなし、給仕を続け、喜ばせることです。マルタは女性であるにもかかわらず、当時の常識にとらわれずにイエスを招き入れました。しかし途中で「女性のあるべき姿」に引き戻され、慌ただしく働くなかで、同じ女であり妹でもあるマリアも当然自分のように働くべきだと考えるようになりました。しかし、イエスはそんなマルタの名を呼び、言います。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」必要なことはただ一つ。イエスの近くを離れず、一心にみ言葉を聴くことなのです。イエスは、「マルタ、マルタ」と深い親しみと愛情を込めて呼びかけ、大切なことへと再びマルタを導こうとなさったのです。

私たちは社会生活を送るなかで、いつの間にか「こうあるべき」という意識を形成します。その意識は、無意識、無自覚のうちに自分の思いや考えを方向付け、支配します。今日のマルタを通して示されたことは、私たちもまた、いつの間にかみ言葉を妨げる覆いがかけてしまっているということです。しかも無数にです。私たち一人ひとりがマルタなのです。しかし、主はそんなわたしたち一人ひとりの名前をも親しみを込めて呼び、語りかけてくださいます。大事なことはただ一つ。イエスから離れず、み言葉を一心に聴くこと。その言葉を心と体に迎え入れることです。すると、その言葉が芽を出し、成長し、実を結びます。そこまで耳を澄ませ、じっくりと主のみ言葉に留まって聴く。そうすることによってはじめて、私たちに被せられた覆いは取り除かれ、神の示される道を歩むことができます。すべての命が等しく、イエスの足もとへ招かれています。